

会 議 録 (概要)

会 議 の 名 称	佐渡市子ども・子育て支援会議
開 催 日 時	令和2 (2020) 年1月23日 (木) 14:00 開会
場 所	佐渡市役所 3階 大会議室
議 題	①パブリックコメントの結果とそれに対する佐渡市の考え方について ②第2期佐渡市子ども・子育て支援事業計画 (素案 vol.3) について ③第2期佐渡市子ども・子育て支援事業計画 表紙イラスト募集選考結果について
会議の公開・非公開 (非公開とした場合は、その理由)	公開
出 席 者	参加者 有識者・子育て中の親 13人 事務局 佐渡市 子ども若者課 課長 市橋法子 課長補佐 藤井隆博 指導保育士 山本淳子 子ども若者相談センター センター長 石井恭子 母子生活支援施設 施設長 土屋由利恵 園児支援係長 本田寿之 子育て支援係長 余湖雅美 子育て企画係長 平岩繁美 主任 須田大輔 補助説明者 (株)オリス・日経マシナリー(株)共同企業体 熊倉 高橋
会 議 資 料	(事前送付) ・パブリックコメントの結果とそれに対する佐渡市の考え方 ・第2期佐渡市子ども・子育て支援事業計画 (素案 vol.3)
傍 聴 人 の 数	0人
備 考	

会議の概要 (発言の要旨)

発言者	議題・発言・結果等
-----	-----------

事務局・平岩	<p>○パブリックコメントの結果とそれに対する佐渡市の考え方について</p> <p>○第2期佐渡市子ども・子育て支援事業計画（素案 vol. 3）について審議する。</p> <p><b>【質疑応答】</b></p> <p><b>パブリックコメントの結果とそれに対する佐渡市の考え方</b></p> <p>特に意見なし。</p> <p><b>第2期佐渡市子ども・子育て支援事業計画（素案 vol. 3）について</b></p>
A氏	<p>○37頁。児童数の推計について、6歳から11歳までの人数が追加され、文中に合計4,198人と表記されているが、推計の表には合計が無い。合計欄を追加してはどうか。</p>
事務局・平岩	<p>○追加する。</p>
B氏	<p>○大変細かい内容となっており、これだけ佐渡市が子どものことについて施策を行っていると言うことがわかる計画だと思う。</p> <p>第5章の具体的事業において、わかりやすくするために所管課及び事業名の検討事業、新規事業を色分けした方が良かったのではないかと。また、83頁の所管課の各事業一覧表（再掲）はわかりやすいのだが、基本目標が番号のみの表示である。再掲であればもう一度基本目標の説明があるともっとわかりやすくなるのではないかと。</p>
事務局・市橋課長	<p>○ご意見を受け、わかりやすく表記する。</p>
B氏	<p>○パブリックコメントでは5名の方からしかご意見が無かったようだが、これだけのことを佐渡市がやっているということ、学校代表として保護者なり、子どもたち、市外の方たちに発信していきたいと思っている。</p>
C氏	<p>○児童数の推計について見方がわからない。令和2年度の0歳児が205人であれば令和3年度の1歳児は205人にはならないのか。今年0歳児であれば来年1歳児になるので、令和2年度と令和3年度は同じ数字になるのではないかと。</p>
事務局・市橋課長	<p>○本当ならば、1歳児が令和2年度205人であれば令和3年度も205人でなければならない。しかし、佐渡市は夢を大きく持っているので増える見込みである。移住定住対策や一定の率を掛けて増やしていきたいというところがあり、この数字見込みをさせていただいた。</p>
D氏	<p>○関連して。皆が気になる場所であると思うが、令和2年度の0歳児205人が令和3年度には226人となる算出根拠は何か。妊娠可能な女性の数と合計特殊出生率及び流入数の見込み数値を教えてください。</p>

事務局・平岩	○110%乗じた数字がこの推計数となっている。
D氏	○1割流入すると言う考え方か？
事務局・市橋課長	○流入も含めて、移住定住の若者世帯とIターンが年間60人くらいである。その世帯の統計を取ってみると第1子が小学生くらいで、後は小さいお子さんが多い。異動等で流出もあるが、流入分を希望を込めて1割増した。合計特殊出生率については、パブコメの意見にもあったが、将来ビジョンで2.01としているので、若い世代の移住定住だけで見ていった時に、若い世代の合計特殊出生率の基礎となる年代の見込がつけにくかった。若い世代の部分に移住部分を加えても110%にはならないのだが、希望を込めて110%増とした。
D氏	○根幹に関わることである。計画を一生懸命立てても子どもの数が減ってしまえば計画はダメになってしまう。110%増は相当無理な数字だと思う。佐渡総合病院の産科入院数も少ない。
事務局・市橋課長	○1月の母子手帳発行は15人くらいである。
D氏	○佐渡病院の分娩数も減っている。昨年の分娩数は293人。里帰り出産が98人。引くと195人で200人を切っている。2018年の出生数は336人であった。出生率が1割以上減っている所以、佐渡での分娩ができる唯一の佐渡病院としては恐怖を覚える。相当努力して流入してもらわないと佐渡の若い女性に産んでくれと言っても増えないと思う。
事務局・市橋課長	○生まれる生まれないの話の前に、結婚するかしないかの話をしなければと言っている。本来、行政で結婚対策をやるかどうかは議論があるところではあるが、やはり、結婚等の対策をしなければ増えてはいかないと思う。移住定住対策については、佐渡はまだまだ課題があると思うが、今後推薦されるであろう世界遺産等も一つの起爆剤として一緒に活用しながら数字を維持していきたい。
D氏	○1歳と0歳の差が大きい、小学校や保育園は大丈夫なのか心配である。
E氏	○これは計画なので、計画を立てる上での推計事項の中で、何もしなかった場合、一生懸命やった場合等、データの出し方はいろいろある。児童推計のところで説明が足りないのではないかと。努力して推計を110%増で見込むのであれば、人口問題研究所のデータを基に行政努力を加味して110%増で見込んだと丁寧に説明し、市民の方に示した方がよい。
事務局・市橋課長	○文言を含め、再校正する。
E氏	○目標に向かって頑張ると言うことを皆で共有することの方が大事である。

事務局・市橋課長	○社会問題研究所のデータは5歳刻みで細かい所まで出ていない。
E氏	○推計のとおりになっているかと言うとそうではない。担当したことがあるが、かなり差が開く。これをPCDAで見直しを行い、この事業では良かったが、この事業ではできていないという検証をすると言うことの方が大事である。
C氏	○110%増で推計すると、0歳児は前年の110%増ということか。0歳児は始めから少ないだろうと言う計算なのか。生まれるのも少ないと予測しているのか。
事務局・市橋課長	○出生数については、今の現実的な数字となっている。0歳から5歳児の数字が将来ビジョン、人口ビジョンでの推計が固まってきたので、そこは一定の数字合わせをさせてもらった。今いる子どもたちの中で、1歳、2歳は110%増を見込んでおり、それ以降は100%、105%と推計している年齢もある。生まれたときは110%にはしていない。母子手帳の申請数や出生の数の経過等を踏まえて、令和2年度の0歳児を推計している。
C氏	○令和2年の1歳児312人が5歳になると457人になると言うことか。
事務局・市橋課長	○なって欲しいと考えている。
F氏	○計画の中に、市の企業企画が出ていた。59頁「子どもが元気なたからじま」と74頁の「子育て両立応援企業認証事業」は具体的に何をするのか。計画に載せただけで終わらないでほしいという希望がある。
事務局・市橋課長	○「子どもが元気なたからじま（子育て応援宣言）」については、他の行政がやっていることや議会からの提案等を参考に、子育てに対する市の本気度を見せたいということから、子どもたちを元気に育てる島という垂れ幕を作りたいと言う事業である。まずできる事からやりたいと思っている。この計画だけではなく、何かしら佐渡市として手を挙げ、表明し、市民の皆さんに分かってもらえるようなことをしたい。いろいろな提案を保護者や関係者と話し合いを行い、市としての取組みを表明していく一つの事業としてやりたいと思っている。
F氏	○佐渡の自慢を表明するという事業か。
事務局・市橋課長	○そのとおり。
事務局・市橋課長	○「子育て両立応援事業認証事業」は、いつも言っていることだが、保育園のサービスばかりが求められている。もっと預かって欲しい、もっと保育料を安くして欲しいということばかりが先行していて、保護者の方が大変なのは承知しているのだが、子育てを両立するには働き方を変えなければいけないと思う。まだ育児休暇等が当たり前が取れないような

	<p>企業があると聞くと、市のサービスばかりが先行することなく、例えば子どもが熱を出したら休みやすいという取り組みを行っている企業を増やし、その企業にはお金を補助するというような取り組みを企業と一緒にやっていきたいというのがこの計画の基礎となっている。</p>
F氏	<p>○県のハッピーパートナー事業の佐渡市バージョンを創りたいということか。</p>
事務局・市橋課長	<p>○そのとおり。</p>
G氏	<p>○61頁の「子どもの予防接種事業」について。今までの予防接種とどう違うのか。検討事業としているので説明を願いたい。</p>
事務局・市橋課長	<p>○法定接種は法定なので当然やらなければならない。法定ではない任意の予防接種について、子どもたちが今後生活していく上で早めに接種した方が良いと思われるものを市の助成事業に入れていきたいというところである。</p>
G氏	<p>○集団接種をするということではないのか。</p>
事務局・市橋課長	<p>○そうではない。任意の予防接種は何があるか教えていただきたい。</p>
D氏	<p>○おたふくの予防接種が任意接種である。この事業の目標は定期予防接種率100%か。</p>
事務局・市橋課長	<p>○確認する。</p>
F氏	<p>○プレママプレパパ教室はどこに入っているか。</p>
事務局・平岩	<p>○所管課の市民生活課に確認したところ、60頁の「妊婦保健指導」に入っている。パパママカフェ等を含めて今後計画を立てていくということである。</p>
F氏	<p>○佐渡病院でやっている母乳外来と助産師会でやっているママカフェ等があると良いと思うのだが、それを支援しているという部分も出した方が良いのではないか。</p>
事務局・市橋課長	<p>○市の事業だけを載せているので、そこは検討する。</p>
B氏	<p>○私見として気づいたことを述べる。基本目標で「子育て」、「親育ち」、「地域育ち」となっているので、基本目標4は「〇〇育ち」にしてはどうか。特別支援とか要支援の子どもたちを支援することだと思っただけだが、「支え育ち」、「共生育ち」等はどうか。特に変える必要はないが、キャッチフレーズでアピールするのであれば揃えたほうが良いのではないか。</p>
事務局・市橋課長	<p>○基本目標は基本的に変える予定は無いが、確かに話をした時のイントネ</p>

	<p>ーションやキャッチフレーズ的に示すのであれば、いただいたご意見の方がわかりやすいと思うが、どうか。</p>
B氏	○サブタイトルとしてついているとわかりやすいが。
事務局・市橋課長	○35頁の施策の体系をみると確かに一つだけ違うとを感じるが、どうか。
B氏	○中身は変わらないので、特に変えることはないとも思うが、どうか。
D氏	○言葉が難しい。
B氏	○当てはまる言葉を探すのが難しい。
事務局・市橋課長	○これを例えば「〇〇育ち」にした時に、いい言葉があるかどうか。
C氏	○私はむしろ「育ち」の「ち」が気になる。あまり「子育て」という言い方は端的ではないと思う。わざわざ「子育て」、「親育ち」としているのは意味があるのか。
事務局・市橋課長	○それぞれが育っていくというようなカテゴリーを組んでいるというのが実際のところである。基本目標はこのままとさせていただく。
<p><b>第2期佐渡市子ども・子育て支援事業計画表紙イラスト募集について</b></p>	
事務局・平岩	○市内の年長児30名から応募があった。昨日審査を行い、表紙イラスト1点、中扉イラスト7点を選定した。表紙イラストはカラーを予定しているが、中扉イラストについては検討中である。今後の予定は、表彰式を行い、その後市内の会場を借りてすべての作品を展示し、市民の皆さまに観ていただきたいと考えている。座長に審査員として審査会に参加していただいた。講評をお願いする。
H氏	○テーマがあるのでそれに沿った作品にしてほしいということもあるが、それにこだわらず、子どもたちが思う存分に描いてくれたという印象を受けた。私の考え方としては、あまりうますぎるのはどうかと思ったが、皆さんの意見も入れて選考した。喜んでいる表情が良いと思っている。5歳児が描く絵は、どうしてもぐちゃぐちゃになる可能性がある。その場合には、保護者が絵筆ではなく、クレヨンにするとかというようなアドバイスをしてもらいたいと思う。どれも良い作品だと思う。表紙イラストに選ばれた絵のように、子どもがこんなに増えるといいなあと思う。たかが冊子なのだが、チラッと表紙を見たら中身まで見たいなあというような効果が表紙イラストにはあるので、良かったと思う。
事務局・市橋課長	○応募していただいたイラストを市民の方々に広く観ていただきたいので、お勧めする展示会場等あれば教えていただきたい。アミューズメントやあいぽーと佐渡を考えているが、その他適当な会場があれば教えていただきたい。30点も応募してくださったので、すべてを何とか計画書

	<p>に掲載できないか再度検討しているところである。</p> <p>今後のスケジュールについて</p> <p>特に意見なし。</p> <p>その他</p>
D氏	<p>○児童数の推計を110%増にするために、市としてこんな新しいことを計画している、こんなことを努力するというような市としての方針、強化策はあるか。</p>
事務局・市橋課長	<p>○人口減少が市の最重要課題だということを皆が認識している。今、佐渡に住む人たちに子どもを産んでほしいと言っても難しい。であるので、佐渡市としてこれだけの資源があるので、島外から入ってきてもらいたい。そして、島から出る、転入や転出の社会減を抑制する必要があるだろうということの方策として出している。佐渡に帰ってきてもらうことも含め、今年度、返還免除の給付型奨学金事業や佐渡で就職してくれる方への支援等を行っている。しかし、結婚についてはなかなか難しい状況であるので、私は結婚対策を市として取り組むべきだと考えている。その上で、佐渡で子どもを産めば、佐渡で暮らしている間はそんなにお金をかけないで暮らせるというところを目指し、来年度以降の予算組みに入りたいと考えている。子育てを楽しんでもらうために、今年度の反省点として、島外で起きた虐待等の事例が表に出たことによって、佐渡の中でも子どもに対しての目が行き届き、皆が子どもたちを気にしてくれたということで、虐待通告が非常に多かった。こういった地域の力を活かしながら、お母さんたちにとって子育てが苦しいと思わない、楽しいと思えるような環境づくりをする必要があると思う。来年度は、子どもへのアプローチ、親へのアプローチを充実させていくことが必要であると考え、ソフト事業になるが予算計上している。</p>
D氏	<p>○先ほどIターンが60ということだったが、Iターンを強化するために空き家を提供する等の構想はないか。</p>
事務局・市橋課長	<p>○個人的には、奥多摩市でやっている空き家を修理し、10年住めば贈呈する施策を佐渡市でもやって欲しいと思っているが、まだそこまで打ち出す段階ではない。</p>
D氏	<p>○是非Iターン、若い夫婦で佐渡に入ってくれるのが一番効果があると思う。</p>
事務局・市橋課長	<p>○警察、県職員、税務署の方々が佐渡に来てくださるのも大きい。</p>
F氏	<p>○私は、以前Iターンを希望している方で、独自で自分のツテをたどって佐渡市の子育てについて話を聞かせてほしいという会を開き、その会に出席したことがある。このような会に佐渡市が参加し、子育ての情報等</p>

	<p>を直接説明すると良いと思う。島内の子育ての話やメリット等を話せる場が設定されることにより、Iターンの方がそこを目指して集まると思う。ニーズが非常にある。その方はまだ検討中である。しかし、佐渡は自然がいっぱいなのだが、子どものゲームもすごいという余計な情報も出ている。</p> <p>また、私の周りには一人目不妊や不妊治療を行っている方が非常に多い。不妊治療等は、女性にとってかなり心が折れることなのであるが、職場の理解がなかったり、サポートがなかったりするので途中であきらめる方がいる。不妊治療をするには新潟大学に行くしかないという経路ができてしまっているので、この辺のサポートができないものかと思う。</p> <p>子どもが戻りたくなるということについて、結局は子どもが育っていく環境をどうするかということだと思う。今、子どもたちが育っている環境は明るくないと思っているので心の相談室を作ってほしいと要望している。相談ごと等を口にできない環境で育った子どもが、島外に出て環境が変わり、開放感を味わったら佐渡には戻りづらくなると思う。どうしたら子どもが楽しくオープンに育つ環境が作れるかと考えた時に、子どもの声を聞く環境が必要であると思った。</p>
事務局・市橋課長	<p>○参考意見として伺い、4月以降やらなければいけないことがたくさんあると認識した。</p> <p>子どもの話を聞くといった時に、自分の学生の頃と比べて、先生や友だちに何でも言える関係性が気づかれていないのかなと思った。今はSNS等が発達しているので、そこで一言発すると心無い言葉等が出るということもあり、コミュニケーションをとることに躊躇するのかもしれない。子どもたちの本音を聞けるのは小学校4、5年生くらいか。中学生だと相手を警戒してしまうか。</p>
F氏	<p>○警戒はするが、中学生が一番大事だと思う。信頼を得ながら子どもの本心を聞くというのは大変なことである。今の中学生の話を聞くと、親と会話ができていない子がすごく多いと感じる。親もどうやって聞いているかわからない。親同士のつながりが薄いので、同じ世代の子育てについての話ができない。周りに相談できなくて一人で悩んでいる子どもが多くいる。某中学校で話し合いがあり、私は、学校に対し子どもの話を聞いて、子どもの視線、目線がある中で何かを訴えているのだということ話を話した。学校の先生はそれほど子どもの視線での訴えを重要視しておらず、経験値から学校は荒れていない、いじめの内ではないという見方をし、対処していたことがわかった。かなり深刻であると訴えた。月1回の訪問になったカウンセラーとどうやって信頼関係を築き、相談ができるのか。また、学校の逃げ場である保健室も使えないという話も聞く。SNSを使ったり、ネット情報を見たりして自分で気持ちを抑えようとするのだが抑えられない子どもたちがいるという状況が見られる。</p>
事務局・市橋課長	<p>○参考にさせていただく。</p>
D氏	<p>○子ども若者相談センターの臨床心理士が人気と聞くが、足りないのでは</p>



事務局・石井	<p>ないか。</p> <p>○足りない。今年度から学校のスクールカウンセラーと定期的な情報交換会をやっている。現状と課題、今後の方向性をまとめている段階である。当然、スクールカウンセラーも月1回では難しいというところもあるが、仕組みをもう一度見直し、みんながいつでも気軽に声を出せるような環境作りを考えている。また、新たな来年度の取組みとして、安心して言っても良い、受け止めてもらえる、お互いに聞き合おう、言い合おうというプログラム（CAP）をモデル的に小学校で実施することを考えている。実現できると良いと思っている。</p>
事務局・平岩	<p>○追加。佐渡市子ども・子育て支援会議の参加者を令和2年度も引き続き皆さんにお願いしたい。</p> <p><b>【閉会】</b></p>